



6/3/2019 - 6/6/2019

# 2019 BIO インターナショナル コンベンション イベント レポート



# BIO International Convention

*The Global Event for Biotechnology*

Nikolai Muth ・ 谷澤寿和

横浜市米州事務所

# 目次

概要 .....	3
登録オプション .....	4
エデュケーション .....	5
2019 エデュケーション・テーマ .....	5
炉辺談話 (Fireside Chats) .....	5
基調講演 .....	5
トレーニング・プログラム (Executive Training Programs) .....	5
パートナーリング .....	6
ワン・オン・ワン・パートナーリング .....	6
展示ブースでのパートナーリング .....	6
海外からの参加 .....	7
パビリオン .....	7
所感 .....	8
出展企業紹介 .....	9
中外製薬 .....	10
グライコテクニカ .....	11
リプロセル .....	12
フロレオ (Floreo, Inc.) .....	13
バリングトン・ジェームズ (Barrington James) .....	14
ザイケン (Xyken, LLC) .....	15

# 概要

BIO インターナショナル・コンベンション（以下、BIO）は、世界有数のバイオ関連組織で、1,100 以上のバイオテック企業、学術機関、州政府関連機関、世界中の関連機関によって構成されているバイオテクノロジー・イノベーション・オーガニゼーションが主催し、バイオ産業の成長を目的に開催されている。また、BIO の収益は、将来の BIO のプログラムなどに充てられる。



BIO の大きな魅力は、「ワン・オン・ワン・パートナーリング」によるグローバル・バイオテックや製薬企業へのアクセス、1,500 以上のエデュケーション・セッション、そして、海外からの多くの参加にある。

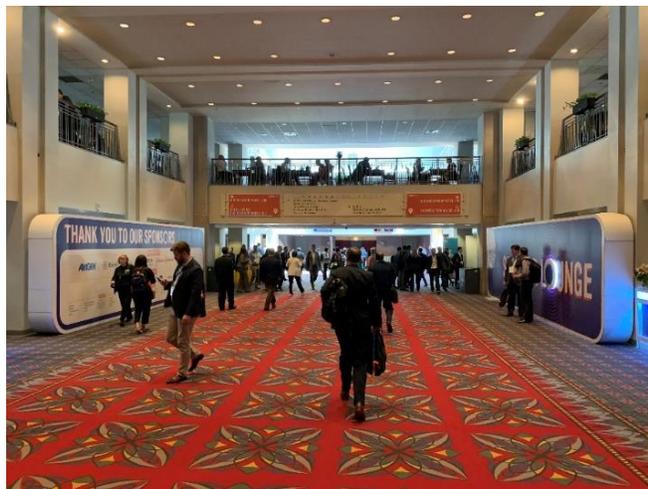
**Website:** <https://convention.bio.org/>

名称:	2019 BIO インターナショナル・コンベンション (BIO 2019)
日程:	2019 年 6 月 3 日 (月) – 6 月 6 日 (木)
開催地:	フィラデルフィア・コンベンション・センター 1101 Arch St, Philadelphia, PA 19107
展示者数:	1,800+
参加企業:	5,000+
来場者:	16,000+

# 登録オプション

BIO には 4 種類の参加オプションがある。

- 展示会パス **(\$325)**
- エデュケーション・パス **(\$1050\*)**
- コンベンション・パス **(\$1250\*\*)**
- コンベンション・パス&パートナーリング  
**(\$3100\*\*)**



\*BIO メンバーはディスカウントあり

\*\*BIO メンバーと早期登録者はディスカウントあり

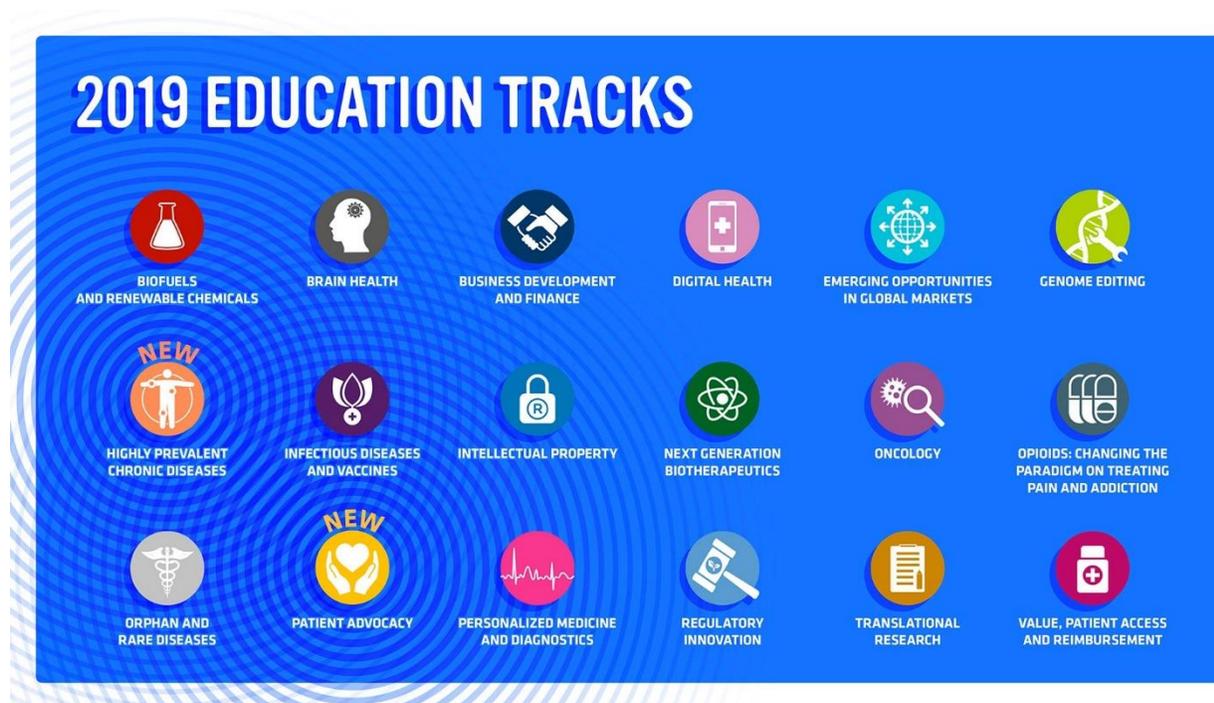
**展示会パス**は、BIO 展示ホールへの入場が可能なパスで、展示場で行われる、企業やスタートアップのプレゼンなどのセッションへの参加も含まれている。またブース出展者が個別に主催するカジュアル・レセプションへの参加も可能だ。

**エデュケーション・パス**は、展示会パスに加えて、エデュケーション・レクチャー、パネルディスカッションへの参加が認められている。レクチャーは、デジタルヘルス、ゲノム編集、ビジネス・ディベロップメント、感染症及びワクチン、腫瘍学などバイオ関連のおよそ 20 のテーマについて提供される。

**コンベンション・パス**は、エデュケーション・パスに加え、二つの基調講演と特別レセプションへの参加が可能となる。

**コンベンション・パス&パートナーリング**は、すべてのパスのサービスに加え、展示者と参加者が、潜在的なビジネスパートナーを探索し、期間中に面談を設定することができるパスとなっている。

# エデュケーション



## 2019 エデュケーション・テーマ

BIO では月曜から木曜までの 8 つの異なるテーマについて、128 のエデュケーション・セッションが開催された。

### 炉辺談話 (Fireside Chats)

世界的な製薬会社メルク・アンド・カンパニーCEO やデラウェア州知事など政府指導者に質疑できる機会が設けられた。

### 基調講演

JP モルガン・チェース銀行 CEO のジェームズ・ダイモン(Jamie Dimon)と 2011 年のピューリッツァー賞受賞者で TIME 誌の世界で最も影響力のある 100 人に選出されたシッダールタ・ムカジー医師 (Siddhartha Mukherjee)による基調講演が行われた。

### トレーニング・プログラム (Executive Training Programs)

参加者と出展者向けに、キャリア促進のためのトレーニング・プログラムが企画された (費用別)。

# パートナリング

## ワン・オン・ワン・パートナリング

BIO では、ワン・オン・ワンのパートナリングの仕組みを通して、効率的、且つ、有意義にネットワークやビジネスミーティングをセッティングすることができる。「コンベンション・パス&パートナリング」で登録した参加者又は展示者は、BIO のイベントに先立って、オンラインのパートナリング・システムにアクセスが可能だ。このシステム上で、登録者は希望の企業に対して、展示会の開始前であってもミーティングをリクエストすることができるようになっている。BIO によると、ワン・オン・ワン・パートナリングによるミーティングの件数は 50,000 に上るとされており、展示会場内の制限エリア「BIO ビジネス・フォーラム」内で行うことになっている。

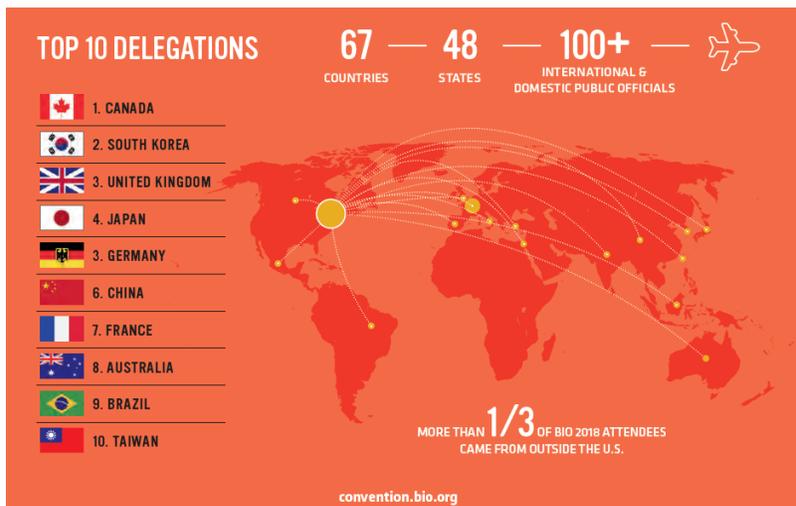
## 展示ブースでのパートナリング

出展者は、ワン・オン・ワンのパートナリングのスペースだけでなく、展示ブースでのパートナリングも可能だ。このパートナリングの利点は、出展者が自社のためにカスタマイズしたブースで、投資家や意思決定者とのミーティングを行えることにある。



# 海外からの参加

BIO は、世界一の規模のバイオ・テクノロジーのイベントであるとされており、世界中から多くの関心が寄せられ、今年は 67 か国からの参加が見られた。これまで、各国の州知事、副総理、大使、政府高官なども参加している。



## パビリオン

海外企業の多くは、自国のパビリオン内で展示されるケースが目立った。展示会場内で最も大きなブースはパビリオンであり、米国の州又は国単位でパビリオンが設けられていた。個々のパビリオンには、当該国の複数の企業が集まっており、日本パビリオンはジェトロが主催し、横浜の企業1社を含むおよそ 15 の企業が出展していた。

# 所感

今回の BIO は、横浜市米州事務所にとって初めての参加であり、多くの点で学びの機会となった。

BIO のプログラムや展示会での企業訪問から、いくつかのキーワードが浮かび上がる。日本企業やジェトロは、**幹細胞研究 (stem cell research)**、**再生医療 (regenerative medicine)**、**バイオマーカーの発見 (biomarker discovery)** を、今年の本 BIO のキーワードと見ているようだった。エデュケーション・セッションにおいては、ここ数年の傾向であるが、今年も**デジタルヘルス**が特に人気を博していた。デジタルヘルスは、米国内でも広くイノベーションが進んでいる分野である。**神経科学関連 (Neuroscience)** も多くのブースで見られた。また、**患者支援 (patient advocacy)** や**まん延している慢性疾患 (highly prevalent chronic diseases)** は今年のエデュケーション・セッションに追加されたテーマだ。

BIO に参加する企業の多くは、パートナーリングを目的としており、出展者は出展ブースでのパートナーリングの仕組みを使い、出展者以外の参加者はワン・オン・ワン・パートナーリングの仕組みを使い、どちらも多くの場合は BIO が始まる前には、ミーティングを設定している。BIO の参加にあたっては、登録オプションを理解し、参加の目的に合った登録オプションを選ぶことが重要であり、多くの場合、BIO 独自のパートナーリング・システムを最大限に利用することが、BIO 参加の成功のカギといえるだろう。



## 出展企業紹介

将来的なマッチングやコラボレーションも見据え、なるべく多くの企業へのインタビューを試みた  
が、出展企業の多くは、パートナーリングの予定が詰まっていたため、残念ながら、その場でのインタ  
ビューは期待通りにはできなかった。いくつかの展示ブースでは担当スタッフと会話をするこ  
うだったが、シニアスタッフではなく、本レポートへの掲載許可をいただくことはできなかった。

まず、BIO 出展企業のうち、横浜に本社又は拠点を置く企業を三社ご紹介し、三社以外で掲載を許可  
いただいた企業の概要をご紹介します

## 中外製薬

### **SUMMARY:**

日本の大手研究開発型製薬企業である中外製薬（本社：東京）は、最近、「中外ライフサイエンスパーク横浜」を開設することを発表した。国内外で数多くの研究開発を行い、例えば、がん領域での革新的な研究開発はその一つだ。中外ライフサイエンスパーク横浜の建設は今年8月に開始される予定となっている。

### **CURRENT STAGE:**

中外製薬はロシュ社と戦略的なアライアンスを提携し外製薬はロシュ社と戦略的なアライアンスを締結し、経営の独自性を保ちながら、東京証券取引所市場の第一部に上場されている。



### **REASONS FOR COMING TO BIO:**

中外製薬は数年にわたって BIO に参加している。今年の BIO には、出展者ブース・パートナーングのための商談スペースを確保し参加した。BIO の期間中、山口哲弥執行役員がプレゼンテーションを行い、日本と欧州市場でのライセンスの機会を探求していると語った。

## グライコテクニカ



### SUMMARY:

ジェトロ・パビリオンに出展したグライコテクニカは、糖鎖の分野で、革新的なソリューションの開発、提供に取り組んでいる。“GlycoStation”という糖鎖解析（糖鎖プロファイリング）、レクチンマイクロアレイ、洗浄不要のエバネッセント波蛍光励起スキャナーなどのサービスを提供し、主力製品である“GlycoStation”は、生体サンプルからの糖鎖プロファイル間の比較測定から重要なデ

ータ導出を可能にする。同社は、約10年間にわたり蓄積したビジネス経験と、糖鎖生物学およびバイオサイエンスの分野に携わる科学者チームによって、世界中のクライアントに革新的なサービスを提供しつづけている。

### CURRENT STAGE:

グライコテクニカは2011年に設立され、15名強の体制で事業を展開し、2018年5月時点でUSD1M以上の売り上げを計上している。

### REASONS FOR COMING TO BIO:

グライコテクニカは2013年ころからバイオテック関連のコンベンションに参加しはじめ、ここ数年連続してBIOに参加している。潜在的な顧客やビジネスパートナーと知り合う機会としてBIOを評価している。

## リプロセル

### SUMMARY:

リプロセルは、2003年に日本で設立され、その後、欧州、インド、米国に拠点をもち、グローバルに拡大した。幅広いヒト細胞ラインナップ、RNA リプログラミング、CRISPR-Cas9 を用いたゲノム編集、3D 培養基材など、ターゲットの同定から治験まで、さまざまな製品およびサービスによるソリューションの提供とともに、再生医療に注力している。

### CURRENT STAGE:

リプロセルは、創業以来、幹細胞分野での研究開発をリードし、近年、M&A や海外代理店との販売提携などグローバル展開を拡大。

### REASONS FOR COMING TO BIO:

本社は横浜で、2017年にオープンしたリプロセル・ヨーロッパのグラスゴー・オフィスが、2018年と今年のBIOで、スコットランド・パビリオン内に出展した。米国や英国において創薬が非常に活発なため、両国の企業が多く参加するBIOは、リプロセルにとって顧客開拓やコネクションづくりの機会となっている。



## フロレオ (Floreo, Inc.)

### SUMMARY:

フロレオはスマートフォン（iPhoneのみ）のVRを活用した学習アプリを提供している。フロレオのアプリは自閉症スペクトラム障害（ASD）児童のために開発され、7歳以上の子供を対象に社会性やコミュニケーションスキルを教える。ASD 児童はVR ヘッドセットを装着して、アプリで遊びながら大人は別のスマートフォンで連動させながらユーザーを案内することもできる。アプリはすでに証明されている技術を使って、人間関係の構築（挨拶、アイコンタクト、質問）、日常生活や予想外な出来事（交差点の横断、防火訓練、警察官）と感覚過敏の対処法（楽器の演奏、深呼吸）をテーマにするレッスンやゲームを提供している。

### CURRENT STAGE:

フロレオはワシントン DC 発のスタートアップで、最近の投資ラウンドで200万ドルを資金調達した。その前には170万ドルの支援を研究パートナーのフィラデルフィア小児病院研究所と共に獲得した。iOSでアプリを入手可能だ。

### REASONS FOR COMING TO BIO:

フロレオは今年初めて BIO に参加し、イノベーション・ゾーンにブースを置いた。スタートアップ・スタジアムでの6分のピッチやCEOによる15分のプレゼンテーションを行うなど、潜在的なパートナーと投資家に同社をPRした。

### INTERNATIONAL / JAPAN

アプリは日本の App Store でもダウンロードできるが、現在は英語のみとなっている。米国で、学校や研究施設とのパートナーシップを構築することを優先しているが、将来的には世界中の子供たちにアプリを使って欲しいと考えている。



## バリングトン・ジェームズ (Barrington James)

### SUMMARY:

バリングトン・ジェームズはバイオ関連組織の国際的な人材サービス会社だ。様々なサイズの企業に対応しており、例えば、成長中のスタートアップと見込みのある人材を繋げることや大企業への長期的・短期的なコンサルティングも可能だ。バリングトン・ジェームズはクライアントのニーズに応じたビジネスモデルを有している。



### CURRENT STAGE:

バリングトン・ジェームズは2002年に設立され、現在140名のコンサルタントがおり、今年の終わりには180名になる見込みだ。英国のサンデー・タイムズの「100 Best Small Companies」リストで2018年に第11位、そして今年第5位に入賞した。

### REASONS FOR COMING TO BIO:

バリングトン・ジェームズは定期的に様々なバイオ関連展示会に参加している。BIOにはパートナーリングシステムを利用して、ライフサイエンス産業の専門家に出会うを目的に参加した。

。

### INTERNATIONAL / JAPAN:

英国、米国、そしてシンガポールに拠点があり、シンガポールのオフィスはアジアと日本を担当している。バリングトン・ジェームズによると、ライフサイエンス分野のリクルート会社として日本市場に参入するのは難しいようだ。しかし、それでも直接日本で拠点を開くことへの関心を示していた。

## ザイケン(Xyken, LLC)

### SUMMARY:

ザイケンは 3D モデリングや AI にフォーカスしたヘルスケアソフトを提供するスタートアップで、遠隔診療、画像による疾患検出、慢性病の管理などを研究している。BIO では iDR app という、傷をモニタリングするアプリを展示した。ユーザーは傷のビデオをとり、アプリがそのビデオを解析し、医者、看護師、患者自身にデータを提供する。ザイケンは他にウェブサイトです 3D スキャンカメラを販売している。

### CURRENT STAGE:

ザイケンはバージニア州を拠点とするスタートアップだ。2018 年に NIH (アメリカ国立衛生研究所) から 170 万ドルの支援を獲得した。

### REASONS FOR COMING TO BIO:

ザイケンはイノベーション・ゾーンにブースを置き、展示会フロア近くのスタートアップ・スタジアムで 6 分のピッチを行った。ワン・オン・ワンのパートナーングの仕組みよりも、展示場で潜在的なヘルスケア産業のクライアントを探ることに関心を持っていたようだ。

### INTERNATIONAL:

アメリカの高齢化社会を踏まえ、高齢化関連ニーズに対応するため 3D アプリを開発している。米国市場を優先しているが、日本をはじめ世界の高齢化社会に直面している国にサービスをいつか提供したいと考えている。



